

白石憲法九条を守る会

子や孫に 平和な世の中を 平和の「つどい」を続けて



白石憲法九条を守る会

代表 丑田 鉄也

連絡先 事務局 (山岡)

☎24-5239

2020年10月16日発行

ごあいさつ

白石憲法九条を守る会 代表 丑田 鉄也

今年の「第九回白石平和のつどい」は残念ながら、この未曾有の感染症コロナ禍により、壽丸屋敷での一連の催しものは中止することにしました。しかし、このところの「米中」、「中国本土と台湾」、「北朝鮮」と何かきな臭い、緊迫する東アジアの国際情勢を考える時、コロナ禍といえ何もしない手はないと考えて、市民の皆さんへ、大判チラシで白石憲法九条を守る会の九年間の活動の様子を「写真」や手書きの「イラスト」を入れながら訴えることとしました。戦争の真の恐さと、平和な日常生活そして命を奪われないようにするにはどうすれば良いのかを考える資料として頂ければという思いを込めて発行しました。来年以降はまた開催していきたい。



「白石憲法九条を守る会」の歩み

「日本国憲法は、いま、大きな試練にさらされています。」今から16年前に井上ひさしさん、梅原猛さん、大江健三郎さん、奥平康弘さん、小田実さん、加藤周一さん、澤地久枝さん、鶴見俊介さん、三木陸子さんらが、日本が戦争放棄の道を変え、アメリカに従って「戦争する国」にしようとしている現状を訴えたのです。

そして、全国民に「二度と戦争はしない」ためにできた平和憲法九条を守る砦を作りましょうと呼びかけました。

それから、全国に草の根の九条の会がひとつ、またひとつでき、2007年に白石にも作ることができました。

7,000 を超えた全国の会はそれぞれの地域のみなさんに呼びかけて、ささやかながら平和を求める活動をしています。

世界を見れば戦争がなかった時はありません。日本が戦争に巻き込まれなかったのは九条があったからこそだと思っています。小さな小さなこの運動が大きくなって「二度と戦争しない国」に、「平和っていいな」と言える国にしていきたい！そんな願いで歩んでいます。

「白石憲法九条を守る会」の活動の様子

井上ひさしさん 『きみは世界でたったひとり。だれとも とりかえがきかない。だから だいじ』

『それをいちばん大事にしていこう、と いうのが日本の「けんぼう」です』(『けんぼう』のはなし 講談社)

「白石憲法九条を守る会」では以下の通り講演会などを行ってきました。

- 2010. 4/4 「九条は住民の安全安心を守る宝」 川井貞一氏 (元白石市長)
- 2011. 10/30 「放射能から子どもとくらしを守るために」 伊東達也氏
(元原発問題住民運動全国連絡会センター筆頭理事)
- 2012. 4/7 「3.11 後の私の生き方と憲法九条」 鹿野文永氏 (元鹿島台町長)
- 2013. 5/31 「命・くらしを支える憲法の大切さ」 河合一成氏 (元東北大学教授)
- 2014. 4/23 映面上映「渡されたバトン」
(新潟県巻町で反原発運動が町民を動かして、原発建設がならなかった実話をもとにした映画)



九条を守れ! スタンディング

2015年4月 仙南九条の会連絡会が結成されて、この後は連絡会として講演会・学習会などを実施しています。



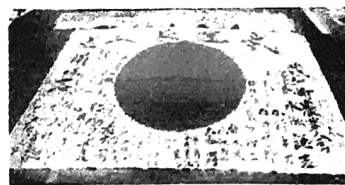
みんな元気な会員の人たち





平和のつどいについて

——戦争当時の体験を聞く——



今から十年以上前に“九条の会”が結成された時、会員の人も市民の人も「目」と「耳」で学習できる「イベント」を考え、戦争中のころのお話を聞く会と会場に戦争当時の生活に関連するものを展示してみた。

今まで、主婦の方、商店の人、元教師、元女学生、銀行員の方、写真家、宗教者の方、そして元市長さんや元町長さんなどたくさんの方々にお話をしていただいた。育った歴史も、環境も異なるその人なりの、戦争当時のつらい体験談だった。

——戦争当時の生活の品々を展示——

戦争中に使用された、国防婦人会の人形や軍服、激励の日の丸、教育勅語、鉄砲、はいのう（ザック）、日本刀のもぞう品、軍靴、銃後の配給券、灯火管制のかさ、赤紙、米つきビンや教科書などを展示した。

貴重な当時の品々を保管されている方や白石人形の蔵などからも借用して、九条の会で所有している物を展示した。

このような戦争の時代がこないように、ずっと戦後が続くようにと願っている。

——広島・長崎の原爆写真展——

もう一つは核による戦争をなくすために原爆の写真展を続けてきたことである。

日本は広島・長崎に原爆を投下され、9年前には原子力発電所の事故に遭った。だから悲惨な世の中にならないように伝えていきたいと思っている。



このように取り組み始めてから10年がすぎた。少数ながら会員は力をあわせて頑張っている。



「戦争を語る会」の取り組み

今年も暑い夏が来た。夏が来ると、広島・長崎そして各地の空襲にふれて、各種の報道がなされ、平和について考える機会が多くなる。終戦から75年が過ぎ、体験者が高齢化し、戦争を知らない人たちに伝え続けることの大切さを考えさせられる機会ともなった。白石九条の会も「平和のつどい」を開催して、平和・憲法九条についてみんなで考えあう機会を持ってきた。

昨年取り組んだ企画について報告いたします。

戦時中の服装で熱演するおばあちゃん先生

寸劇と歌で綴る

「おばあちゃんから孫たちへ」
—戦争中のこと・平和の大切さを語り継ぐ—
退職女性教職員の会 宮城白萩の会中央支部



20数年前、白萩の会中央支部のメンバーが自分たちの少女時代のことを書き残そうと決め、各自が忘れてはならない体験を書き、集めて「おばあちゃんから孫たちへ」として1冊の本にまとめて刊行した。それに作曲家の小林康浩氏が曲をつけて、『合唱と語り』の組曲として完成させた。

○幾百万の 幾千万の命の礎が築いたこの平和 ○私の目の前で散っていった命 ○世界で一番砂糖が好き

○開墾して食糧増産 ○無言の凱旋 ○語り部として伝え続けること、等が入っている。

現在、語り部活動として、小学校の出前授業や地域の九条の会に出向き、平和の大切さを伝える活動を行っている。公演後皆様から、○歌・語り・地図・年表・解説の構成がわかりやすく、丁寧でよかった。

○歌にのせた言葉が臨場感がありよかった。

○歴史的な事実がしっかり伝わってよかった、等の感想をよせていただいた。